

北斗句会

北斗句会 十二月定例会（五日、偕行社 兼題「枯」「鍋」）

五十音順 特選は特選 石田きよし選

特選 寄鍋に上下のへだて煮込みけり 大崎石州

枯葉舞ふ秩父の里に笛の音 太田黒幸風

加速して過ぎ去る日々や晦日蕎麦 大森康政

特選 風になほ応ふる力枯尾花 川瀬 亮

特選 山茶花や黒衣の人とすれ違ふ 竹内雲泉

蘇る小春の喪中はがきかな 田中資凡

特選 軟着の術知らぬらし朴落葉 長池豆陽

木枯と共に逝きたる友偲ぶ 速水紫洲

木枯の海より迫る湊かな 深見十万

牡丹鍋仕留めしひとの怪気炎 藤田紀潮

枯蓮や忍ばずの池忍ばせる 宮下ひかる

旅人と長き影ゆく枯野かな 森田光彦

雪吊の逆さに映ゆる水面かな 山縣秀雄

冬枯れの芝目に残るクラブあと 吉岡誠山



どの目にも海光宿る柳葉魚かな 石田きよし